第２学年　音楽科　学習構想案

日　時　　令和５年９月１９日（火）第５校時

場　所　　大野小学校音楽室

指導者　　教諭　川村　咲季

１　題材構想

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 題材名 | | リズムを　かさねて　楽しもう　教材名「いるかは　ざんぶらこ」 | | | | |
| 題材の  目標 | | 1. 拍子やリズムなどと曲想との関わりに気付き、リズム伴奏と合わせて歌ったりリズムを組み合わせて演奏したりする技能を身に付ける。 2. ２拍子と３拍子の違いやリズムの特徴を生かして、拍にのった歌い方、リズムの打ち方や旋律の演奏の仕方について思いをもつ。 3. 拍子とリズムの関わりに関心をもち、拍にのって友達と合わせて歌ったり演奏したりする学習に楽しんで取り組む。 | | | | |
| 題材の  評価規準 | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | | | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①曲想と拍子やリズムとの関わりに気付き、リズム譜を見て演奏する技能を身に付けて演奏している。  ②曲想と拍子やリズム、音の重なりとの関わりに気付き、リズムを聴きながら友達と声を合わせて歌ったり、互いの楽器の音や歌声を聴きながら打楽器を演奏したりする技能を身に付けて歌ったり演奏したりしている。  ③曲想と拍子やリズム、旋律との関わりに気付き、範唱を聴いて歌ったり階名唱したりする技能を身に付けて歌っている。  ④曲想と拍子やリズム、旋律との関わりに気付き、互いの音を聴きながら鍵盤ハーモニカを演奏する技能を身に付けて演奏している。  ⑤楽器の音色と演奏の仕方との関わりに気付き、互いの楽器の音を聴きながら、音色に気を付けて音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。 | ①２拍子のリズムの特徴を生かしながら、曲の終わりの部分のリズムを工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。  ②２拍子と３拍子の違いやリズムの特徴を生かしながら、拍にのった歌い方やリズムの打ち方を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。  ③拍子やリズム、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、リズムの打ち方や旋律の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。 | | | ①拍子とリズムの関わりに興味・関心をもち、拍にのって友達と音に合わせて演奏する学習に楽しんで取り組もうとしている。  ②曲想と拍子やリズム、旋律との関わりに興味・関心をもち、拍にのって鍵盤ハーモニカを演奏する学習に、友達と仲よく楽しんで取り組もうとしている。 |
| 題材終了時の児童の姿（題材のゴールの姿・期待される姿） | | | | | | |
| これから出会う音楽について、拍子やリズムなどと曲想との関わりに気付き、拍子の違いやリズムの特徴を生かして演奏の仕方を考えたり、拍にのって友達と合わせて楽しく歌ったり演奏したりしようとする児童。 | | | | | | |
| 題材を通した学習課題（題材の中心的な学習課題） | | | | 本題材で働かせる見方・考え方 | | |
| リズム名人になって、じどうしゅう会で　はっぴょうしよう。 | | | | 音楽に対する感性を働かせ、２拍子と３拍子の違いやリズムの特徴とその働きの視点で捉え、自己のイメージと関連付けること。 | | |
| 指導計画と評価計画（　８時間取り扱い　本時　４／８） | | | | | | |
| 過程 | 時間 | 学習活動 | | | 評価の観点 | |
| 一 | ２ | ○２拍子を感じながら、リズム打ちをする。「この空とぼう」 | | | 【態①】行動観察、演奏聴取  ★【知・技②】行動観察、演奏聴取  ○曲想と拍子やリズム、音の重なりとの関わりに気付き、リズムを聴きながら友達と声を合わせて歌ったり、互いの楽器の音や歌声を聴きながら打楽器を演奏したりする技能を身に付けて歌ったり演奏したりしている。  ★【思・判・表②】演奏聴取、行動観察  ○２拍子と３拍子の違いやリズムの特徴を生かしながら、拍にのった歌い方やリズムの打ち方を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。 | |
| ○２拍子を感じながら、歌とリズムを重ねて演奏する。「この空とぼう」 | | |
| ２ | ○３拍子を感じながら、リズム打ちをする。「いるかはざんぶらこ」 | | |
| ○３拍子を感じながら、歌とリズムを重ねて演奏する。「いるかはざんぶらこ」（本時） | | |
| 二 | ４ | ○２拍子を感じ取って、歌ったり階名唱をしたりする。「山のポルカ」 | | | 【態②】演奏聴取、行動観察  ★【知・技⑤】演奏聴取、演奏観察  ○楽器の音色と演奏の仕方との関わりに気付き、互いの楽器の音を聴きながら、音色に気を付けて音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。  ★【思・判・表③】演奏聴取、発言内容、行動観察  ○拍子やリズム、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、リズムの打ち方や旋律の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。 | |
| ○拍にのって、鍵盤ハーモニカで演奏する。「山のポルカ」 | | |
| ○２拍子を感じながら、打楽器で演奏する。「山のポルカ」 | | |
| ○拍にのって、合奏をする。「山のポルカ」 | | |

２　指導に当たっての留意点

○　２年生は６名（特別支援学級児童２名含む。）である。

○　学習計画が書かれたワークシートを配付することで、見通しを持って学習できるようにする。

* 導入と終末を２学年一緒に活動することで、終末にお互いの演奏のよいところを発表することができるようにする。
* アイテムカードを配付することで、演奏の工夫を見つけることができるようにする。
* 活動の流れを書いたホワイトボードを用意することで、学習リーダーを中心に学習を進められるようにする。
* 毎時間、終末に名人帽子にシールを貼る活動を設定することで、「どれみふぁそめいじん」に近づいていることを実感できるようにする。